



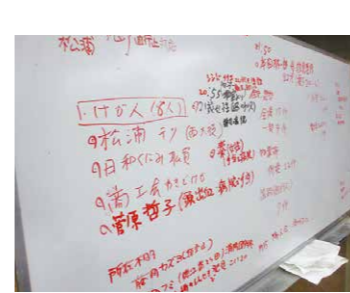
1 地震当日は真っ暗な中、多くの町民が観月台文化センター体育館へ避難 2 炊き出しする日赤奉仕団のみなさん 3 給油のためにガソリンスタンドまでできた行列 4 連日、水を求めて多くの人を訪れた給水所 5 断水のため県内・県外自治体からの支援を受けて給水(写真は島根県浜田市からきていただいた給水車) 6 避難所生活者のため医師が体調確認に訪問 7 多くの人が食料を求めコープマーケット国見店へ 8 役場庁舎が被災したため観月台文化センターに仮庁舎を置き事務を執行

震災当時、第5分団3部の部長をしていました。発生時農作業をしていた私は、家の様子を確認した後、屯所に集まった団員と手分けして被害の確認と一人暮らしの人たちの安否を確かめるべく活動を始めました。幸いにも人的な被害はありませんでしたが、物的な被害は甚大でした。大木戸地区の避難所になった大木戸ふれあいセンターを拠点とし、給水活動や避難者支援を行っていました。物資や

地域を守る使命と  
団員の結束を力に



国見町消防団 団長  
村上 信夫さん



被害状況などを記録したボード

情報が少ない中でも団員は早朝から出動し、精力的に活動してくれました。何も無い中でも豊かな発想力、くじけない心の強さ、仲間を思いやるあたたかい心に勇気もらいながら活動したことが思い出されます。近年は一昨年の台風19号



災害対策本部での打合わせ

を上げるまでもなく、毎年のように自然災害が起こっています。消防団はその中でも地域に根付いた活動や支援を行っています。町民のみならずには自分の故郷は自分たちで守ろうと日々努力している消防団にご理解とご支援をお願いいたします。そして団員には、日々の消防団の活動が、町民の安全・安心と自分たちの家族を守ることに寄与していることに自覚と誇りを持ってもらいたいと願っています。

